

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171800905		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム草加		
所在地	埼玉県草加市長栄町560		
自己評価作成日	平成24年 1月18日	評価結果市町村受理日	平成24年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成24年 2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街に在することもあり、地域自治会の行事に積極的に参加することによって、なごみの方との交流が出来ることの楽しさを得られる事。また、民生委員の方のご協力を得て、畑の収穫野菜を楽しんだり、行事・防災にも地域への働きかけを続行しながら、利用者様に一日一日健康で食事に工夫して美味しく食べて頂き笑って暮らして頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・身体能力の低下防止に対する個別支援に取り組まれている。咀嚼・嚥下能力低下予防のあご・ほほ・眉間への指圧やマッサージ、歯ブラシの柄の部分を使っての口腔への刺激、寝たきりの利用者についても居室にこもらず、リビングのソファや椅子で過ごしていただいたり、入浴時にはハンモックを使って浴槽に浸かっていたり、支援をされている。また、入院時には病院に出向き、病室での洗顔や口腔ケア、顔への指圧やマッサージ、箸が持てなくなると手・指のマッサージを行なうなど、献身的な介助を実践されている。
 ・設定された目標達成計画の重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、咀嚼・嚥下能力、皮膚疾患や寝たきり防止対策等、身体能力維持向上に向けた研修に取り組み、職員の知識・介護技術のレベル向上に結び付け、目標を達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から応援して頂ける施設づくり」という会社理念を基に職員の確認・認識できるように事務所・休憩室に掲げ意識付けをしています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念、運営方針がつくられ、管理者と職員はそれらを共有し、住み慣れた地域の中で、利用者一人ひとりのこころ・思いを大切にしたケアの取り組みが行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、催し物に参加したり、施設犬の散歩を通して、利用者も近所の方との会話を楽しんだりと日常的に交流があります。	いも煮会や清掃活動など、町内行事に参加したり、ペット犬を連れての日課の散歩では地域の人たちと挨拶を交わされている。又、民生委員や地域包括支援センター職員との連携、中学生の福祉体験の受入、フラダンス、日舞等各種ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、近隣の方達を招いて防災訓練を行ったりする事で、グループホームや認知症の方々を理解して頂き、良い関係が築かれています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・ご家族の他、地域包括民生委員さん等の参加で交流も広まり、多種多様な意見を聞く事ができる良い情報交換の場となり、サービス向上に繋げています。	定期的に関催され、事業所からの報告のほか、参加者からも意見・提案が行なわれ、事業所運営に活かされている。敬老会やウォーキング大会などの地域情報、熱中症や災害時対策などについての話し合いが持たれ、サービス向上に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的(毎月)入居状況などの報告に伺い、相談・助言を頂きながら常に連携を取り、施設運営を行うようにしています。	事業所からの報告・相談や事務手続き時などのほか、介護事業者連絡会議などの会合時でも市担当者とのコミュニケーションを図り、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー・身体拘束廃止委員会を設けて、他施設の事例やニュースを基に職員への啓蒙活動、勉強会等を実施し身体拘束ゼロへの取り組みを実施しています。	内部研修が行われ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに向けた取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の具体的な行為、言葉使い一つからも虐待につながる事を常に念頭に置き、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修参加により学び、必要と認めた場合には関係の話し合いを持ち、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせから契約にいたるまで、見学時や電話での説明や疑問・質問に充分時間をかけ伝えている事で同意も得られています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や家族会推進会議の中で、話・意見を吸い上げ、可能な事は運営に反映するように努力しています。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や面会・イベント時に意見・要望の聴き取りを行なっている。意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が代表者・管理者に報告・連絡・相談ができる体制作りにも努め、業務カンファや定期的ヒヤリング・アンケートによる職員の意見発信の場を設けています。	定例会議や個別面談時に意見・提案を聴きとられている。又、発言しやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、定期的な外食会やボランティア導入企画など、具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が認めた資格や研修については、出勤扱いの上、会社負担で受講可能としている。年間休日120日や、シフトの融通性をもって就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修等、計画的に参加できるようにしています。参加職員により施設内で伝達講習を行い、全職員の知識向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる研修会に参加し、情報交換をしたり、その内容を施設に持ち帰り、職員会議でも話し合い、サービス質の向上に取り入れたりします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の背景や思い・要望をお聞きしたり、行動・会話・表情等を踏まえ、安心して生活して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事・要望にも、できるだけ応えられるよう話し合いを持っています。些細な事でも相談・助言できる窓口(管理者)を設け、又、家族会に参加頂く事で、ご家族同士の交流も持てる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の背景や思い・状態を知り、医療(内服など)が必要であれば医師とご家族との話し合いの場を設けたりします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る役割等をやって頂いたり、レクと一緒に取り組んだりしています。普段の会話の中に教えられる事は沢山あり、一方的な介護にならぬよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事・家族会にはできるだけ参加して頂くよう声掛けし、毎月の郵送の広報等でも情報を伝え、ご本人と一緒に時間を過ごせる機会を設けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者も多く、入居前の近隣住民との関係も継続されています。友人と居室にて詩吟を楽しむ風景も見られ、また、馴染みの美容室への外出支援も努めています。	古くからの友人・知人が面会に見えたり、家族の協力を得ての墓参りや行きつけの美容室へ出かけるほか、知人・友人との手紙のやり取りや電話の取り次ぎなど、馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が状況を把握し仲を取り持ち、利用者同士がレクリエーションを楽しんだり、日向ぼっこしたりと、和気藹々に暮らせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も行事の誘い、お便り・電話などの必要に応じて相談・支援できる様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から思いや意向を汲み取ったり、仕草や表情から感じ取ったりしているが、それでも困難な場合は家族に協力頂き話し合いの場を作るよう努めています。	思いや意向の把握が難しい利用者については、入居時の各種情報の振り返りのほか、日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情・仕草などからその真意を推し図るよう努め、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの生活歴や環境生活などの情報を基に、ホームでも安心して生活を送って頂けるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態の変化を見逃さず、早期発見できるよう日頃から一人ひとりの状態を把握し、個別記録に記録し職員間で情報共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・カンファレンスを基にご本人・ご家族等の要望意見も伺い、それぞれの意見を生かし、現状に見合った介護計画を作成しています。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聴きとり、医師、看護師の意見を含め、関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に細かい事でも記録として残し、申し送りや連絡ノートへの活用、また、職員間で情報共有を密に行い、実践・介護計画立案へ活かせる様努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への対応・買い物の同行は、利用者の状況、又は現状に応じて、ご家族の送迎等を含め柔軟な対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会の催しに参加したり、ボランティア(訪問美容、ハーモニカ、日本舞踊、フラダンス他)地域の方々と触れ合う機会を作っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、週1回の歯科往診、訪問看護による医療支援を行っています。必要な科への通院はご家族にも協力して頂いています。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われ、医師や家族への必要な利用者情報の提供も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問介護にて健康管理面などの相談・指導を受けています。必要時には医療機関への連携も図れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様やご家族の意見を確認しながら、病院側と情報交換・相談を行っています。又、面会の中でも状態把握に努め、退院後も安心したケアが受けられるような体制作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や医師と十分話し合いながら、ケアの統一をし、適切なケアが出来るように取り組みをしています。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も早い段階から話し合いを行ない、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行なわれている。重度化や看取りに対する知識や技術の習得に向けた勉強会にも取り組まれ、体制の整備を図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、それに沿った対応を行ったり、毎月防災対策として話し合いができ、応急手当・搬送方法等をシュミレーションとして行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練(夜間・昼間の設定)を実施し、又起震車に乗り揺れ方を実際に体験するなど、利用者様と共同訓練を行い、地域の理解を深めています。	消防署の協力を得て、避難・通報・初期消火などの総合訓練を実施されている。地域との協力体制についても防災訓練(起震車による地震体験など)に地域住民の参加を得るなど、取り組まれている。又、防災ずきんや非常持出袋を作成し、居室前の手すりや玄関先に常備するなど、対策もとられている。	消防法に基づく、火災発生時の対応マニュアルは整備されているものの、地震や風水害などの災害種別及び職員の手薄となる夜間の発生を想定したマニュアルの見直しとその訓練の実施などを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊重と敬う気持ちを大切にし、一人ひとりに合った声かけと対応を心掛けています。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる環境・関係を作り、ご本人の希望や意見をお聞きしたり、表情・行動などで判断するなど心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調やペースを大切にし、ご本人の気持ちに配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容・鏡を見ながら身支度を一緒に行っています。自己決定出来ない方には職員が季節や本人の好みにあったものを選択しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事の支援として、お手拭きのタオル巻き、食材の豆の筋とり、ジャガイモの皮むき、切るなど、職員と一緒にしています。	利用者個々の力に合わせ、料理の準備、後片付け等職員と共に行っている。定期的に利用者の希望を聴き取り、親子丼やお好み焼きにメニューを変更したり、ステーキ店のハンバーグ弁当や和食レストランでの食事、その他、家族の協力を得て好物の寿司店に出かけるなど、食事を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量や形態(刻み・ミキサー食)で対応し、水分摂取の少ない方にはゼリー等で対応しています。その方の状態・習慣も考慮した柔軟な対応を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科の口腔ケアを行っています。介助の必要な人は、職員により、見直し、仕上げを行い、口腔内はさっぱりとして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用して、一人ひとりの排泄リズムを把握し誘導しています。下衣の着脱も見守りをし、出来ない部分を支援するようにしています。	利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に報じて、誘導や声掛けを行い、自立に向けて支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認して、利用者様の希望に沿うように入浴を楽しんで頂いています。	午後入浴を基本とし、出来る限り利用者の希望に沿った支援をされている。足浴、柚子湯などの季節湯や入浴芳香剤なども楽しまれている。又、利用者個々の力に合わせ、職員2人で介助体制をとるなど、安全面にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節により、寒い時にはペットボトル・湯たんぽ利用で布団類を温めておいたり、夜間眠りの浅い方、寝付きの悪い方には定時に足浴を行い、安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指示の下、処方内容効果を確認し、薬変更時は全職員で把握し、変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やリズム体操・計算ドリル等をレクリエーションで行い、結果を採点し、次回は繋げています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回、入居者様の希望を伺い、外食やお花見等を計画し、ご家族様にもご協力頂いています。	ペット犬と一緒に日課の散歩や玄関先での外気浴、毎月の外食会、季節毎のお花見やいちご狩り、その他、家族の協力を得ての外出等、利用者の希望に沿った取り組みが行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事など外食、買い物としての内容の時には、ご家族と相談し、小銭入れに少額を入れ所持して頂き、職員と一緒に買い物に出掛ける支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じ、電話や手紙などのやりとりができる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りやお花を置き、季節感が出せるよう工夫しています。	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音・採光など、きめ細かな配慮がとられている。又、正月飾りやひな祭りなど、季節感のある飾付けと明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、常に職員を配置し、日光浴をする人にはソファーに座って頂き、一人ひとりに合った過ごし方が出来る様な工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具・好みの物を置いて頂き、居心地の良い空間となるよう配慮しています。	家族の写真や仏壇、使い慣れたタンスや椅子、好みの絵やカレンダーなどが持ち込まれ、利用者が居心地良く、ゆっくり過ごせるよう工夫されている。又、毎朝掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ頻回の方には出来るだけ居室をトイレの近くに利用して頂き、夜間の危険防止として常時明りをつけて安全面に配慮しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム草加

作成日: 平成 24年 4月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	雨他、災害時に近隣や自治会との連携協力を得るには今まで以上に行事などへの招待をしていきたい。	近隣・自治会と、行事を通して親交を深めていく。	自治会での行事・清掃活動などの取り組みに入居者と共に参加し、GHとして毎月1回クリーン作戦をしていきます。	[随時] 行事毎の見直しを行う
2	3	施設の周囲には水路があり、時期的に蚊が発生するため、環境衛生に努めて汚染水が滞らないよう常に整備を考えていく。	施設水路部については、定期的に草木の処理を月に1度ずつ整備に努める。	水路は災害対策にも繋がるので、3月は2回整備を行い、環境整理を始めています。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。